

東京慈恵会医科大学 英語

2022年 2月9日実施

I.

1. (A) 4 (B) 3 (C) 4 (D) 1 (E) 2 (F) 3

2. 3

3. 2

4. 1

5. 3

6. 3

7. 1

<講評>

コレラの発生とその原因が分かるまでの経緯について述べた英文。慈恵らしい選択肢の作り込みで、絞り込みも一筋縄ではいかない。

6. は2と3で迷う。2も事実としては正しいが、あくまで“**What convinced John Snow**”「ジョン・スノーを確信させたものはどれか」という問いであることから、第5段落第1文を根拠とし3を正答とした。しかし、3の“**All of the victims**”という表現も少々気になる。これを暗黙の了解として“**residents of the Broad Street area of London**”に対する **all of the victims** ととれば成立するが、その範囲外の罹患者も含めるなら誤答となりうる。

II.

A. 3 B. 2 C. 1 D. 1

X. (解答例) Why should we bother to reactivate dormant ties in order to gain something novel

<講評>

疎遠になった関係を掘り起こすことのメリットについて論じた英文。**dormant** という語の意味が分からず初っ端から面食らった受験生も多かっただろうが、落ち着いて先を読めば推測可能である。昨年度はフレーズ補充が10問出題されたが、本年度は4問に減少し、本文の長さの割に設問の少ない大問であった。X. は本文中の空所を論旨に合うように作文する問題で、一昨年度の出題に近い形式であった。

III.

1. (1) 4 (2) 3 (3) 4 (4) 1

2. 1

3. 4

4. 2

5. 3

6. (解答例) It's possible. Even though something no longer appears beneficial, continuing it till the end can lead to a sense of responsibility and help us develop as a person. For example, if I am playing a baseball game as captain of our team and almost losing the game, should I give up the game and go on to something else? Never. Sometimes "keeping on playing" is more important than winning something.

<講評>

サックコスト（埋没費用）について論じた英文。長文3題中では最も平易で読みやすい。特に、1. の類語選択は慈悲にしてはかなり簡単な部類でありノーミスが望ましい。6. は昨年度と同じく、本文のテーマに関連した内容の自由英作文が出題された。問題文を解するのは易しい一方、具体的な事例を思い浮かべるのが少々難しかったかもしれない。

【総評】

大問構成および出題形式は昨年度とほぼ同一であった。相変わらず語彙レベルは高い一方、60分という試験時間に対しては比較的余裕のある分量と思われる。難解語も周囲の文脈から推測可能なものが多いため、じっくり精読すれば正答に至れるものが多かったはず。例年通り自由英作文も出題されたが、2019年度まで長らく出題されていた和文英訳は本年度も出題されなかった。一次通過ラインは、65%程度か。

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部専門予備校

YMS

☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>
東京都渋谷区代々木1-37-14

医学部進学予備校

メビオ

☎ 0120-146-156
<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校

英進館メビオ 福岡校

☎ 0120-192-215
<https://www.mebio-eishinkan.com/>



友だち追加で全科目を閲覧!

LINE 公式アカウント

◀ YMSの友だち登録はこちら